年度末報告書 (実行団体)

● 提 出 日 : 2022 年 4 月 14 日

● 事 業 名 : 公益活動における海外ルーツ青少年受入体制推進事業

● 資金分配団体 : 公益財団法人 日本国際交流センター

● 実 行 団 体 : 特定非営利活動法人青少年自立援助センター

● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成(通常枠での追加助成)の有無 : ☑有 □無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況 *
1 海外ルーツ青少年支援ネットワーク参画団体が、各活動領域において、多文化対応に必要な知識とスキルを獲得する。		初期値 10 倍(40 団体)	2023年3月	27 (子ども食堂 1 LGBTQ 1 若者就労 1	2
				e-ラーニング 1 子どもの貧困 1 障害者 1 生活困窮者 1 子どもの居場所 1	

			子どもスポーツ 1 ユースサポート 2 海外ルーツ子ども支援 6	
			その他外国人・多文化共	
			生関係 6	
			国際交流協会 4)	
②海外ルーツ青少年	① 12回 (年4回)	2023年3月	① 7回	2
支援勉強会実施回数、	② 参加者数 25 名/回以上		② 379名 (7回)	
参加者数、理解度	③ 理解度9割以上		③アンケート(3 回分)	
			で「非常によく理解でき	
			た」「よく理解できた」が	
			9割以上となっている。	
			アンケート(2 回分)で	
			「(内容が) 活動に役立	
			つ」「大いに役立つ」が	
			85%、「(参加して) 海外	
			ルーツ子ども支援に(さ	
			 らに) 取り組みたいと思	
			ったか」の設問につい	
			て、85%が「そう思う」「大	
			変そう思う」と回答し	
			<i>t</i> c.	
③多文化対応推進プ	23団体、46名	2023年3月	11 団体、39 名	2

	ログラム参画団体数、			(参考資料ルーブリッ	
	職員数、理解度			ク参照 *一部抜粋し	
				て添付)	
	④オンライン支援現	20 団体、25 名	2022年3月	16 団体、22 名	2
	場での実践に参画し			(参考資料ルーブリッ	
	た団体数、職員数、理			ク参照 *一部抜粋し	
	解度			て添付)	
2 各公益活動団体内で実施さ	①多文化対応推進プ	23 団体、25 事業	2023年3月	11 団体、13 事業	3
れている事業において多文化対	ログラムで海外ルー				
応が推進され、海外ルーツ青少	ツ青少年受け入れに				
年等に対する合理的な配慮が実	取り組む公益活動団				
行される。	体における事業数				
	②合理的な配慮の元、	30 名	2023年3月	28名	2
	オンラインを活用し				
	た支援実践によって				
	不就学・学齢超過の状				
	態が改善した海外ル				
	ーツ青少年の数				
3 各公益活動団体が取り組む	①多文化対応推進プ	海外にルーツを持つ青少年	2023年3月	確認中(最終報告までに	4
諸課題にとって必要な多文化対	ログラムで海外ルー	300 名		集約予定)	
応ノウハウをまとめ、各領域に	ツ青少年受け入れに				
モデルとして波及する	取り組む公益活動団				
	体における事業によ				

る直接の海外ルーツ		
青少年受益者数		

*進捗状況:1計画より進んでいる、2計画どおり進んでいる、3計画より遅れている、4その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み

2.概ね達成の見込み

2.アウトカムの状況

A:変更項目

☑変更なし □短期アウトカムの内容 □短期アウトカムの表現 □短期アウトカムの指標 □アウトカムの目標値

3. 活動に関する報告

本事業は、主に日本人の青少年を主たる対象として活動してきた公益活動団体が、外国ルーツ青少年もその対象として受け入れ、適切な配慮の元に支援を行うことができるようノウハウの提供、研修、伴走支援などを実施している。

本年度はこれまでの公益活動団体に加え、LGBTQ や障害者、生活困窮や子ども食堂などを運営する団体へのサポートを実施し、外国ルーツ青少年がアクセス可能な支援領域の拡大につなげられる一歩となった。例えば障害者支援を行っている団体では、地域的に外国籍住民が多く暮らしている。当該団体は困窮者支援も実施しており、コロナ禍の中でこれまでになく支援を必要とする外国籍住民の増加に驚き、地域に少なからずいるであろう非日本語使用者である障害者や生活困窮者に手を伸ばして行きたいとの意欲を持っていた。これに対し本事業ではオンラインを通じた打合せや研修を実施した。研修では「やさしい日本語」の基礎を学んだ上で、当該団体が受託する地域の障害者機関相談支援センターのパンフレットのやさしい日本語翻訳に取り組んだ。このやさしい日本語版パンフレットが自治体窓口で配架・配布されることとなった他、市内の他の地域にも紹介され、同様の取り組みを行ってもらえるよう自治体が呼び掛けを実施するなどの広がりを生んだ。また、当該団体職員に対し、海外ルーツ者に対する支援の基礎(在留資格、相談対応上の配慮など)研修をオーダーメイドで実施し、団体のニーズに即した多文化対応の推進を促進することができた。今後、市内全域の外国にルーツを持つ障害者が適切な福祉支援につ

ながることができるよう、当該団体の今後の活動に注目している。

初年度からコロナ禍の影響により計画通り協力団体を発見することが困難となり、参画団体数の増加は鈍い状況が続いてきたが、本年度はじょじょに活動を活発化できる見通しが立ち始めたところである。最終年度はこれまでの遅れを取り戻せるよう、関心を持つ団体の発掘や訪問、実務研修など、リアルでのコミュニケーションにも力を入れて行く予定である。

外国ルーツ青少年や生活者が地域で生活を営んでいる以上、あらゆる社会的な資源にアクセスが拓かれることが必要不可欠であり、本事業では引き続き多様な支援分野で活動する公益活動団体への働きかけを行う予定である。また、すでに連携を実施している各分野の団体と共に、それぞれの分野における海外ルーツ青少年受入れに要するノウハウや工夫についてまとめ広く発信することで、地域的な拡がりを生み出しつつ共生社会の基盤整備につなげたい。

一方、海外ルーツ青少年を対象とした活動を実施している団体の中には、現在においてもコロナ禍の影響により引き続き活動を再開することができていない団体が少なくない状況にあり、日本語教育機会や学習(支援)機会が全体として減少している中で、オンラインによる支援機会の拡充は引き続き必要性が高い。特に不就学や15歳以上の子どもなど、現在学校にもその他の教育機会にもつながっていない状況にある海外ルーツ青少年に対する支援を、その子どもの身近な地域にあるカウンターパートと共に、これまで28人の子どもたちの環境と状況の改善を図ってきた。また、「オンラインを通じ、1人の子どもを他の関係機関と協働で支援する」経験を積んでもらうことで、地域での伴走支援に関するノウハウの獲得などを推進している。協働した団体の多くが、海外ルーツの子どもに対するサポートが週1回程度の学習支援に留まる場合が多く、学校につながっていない子どもが「毎日学習できる」場や「来日直後に、集中的に日本語が学べる機会」の提供を当法人が提供した上で、オンラインと地域とで役割分担をしながら協働できたことが、主な良かった点として挙げられている。また、協働したすべての団体が今後も不就学や学齢超過の子どもについて問い合わせがあれば支援をしたい、積極的にニーズを探した上で支援をしたいと答えており、社会的所属を持たない状況の子どもに対してもサポート継続の意欲を有している。

しかしながら、こうした社会的所属のない状況の子どもたちが有する「毎日利用できる支援」ニーズを満たせるプログラムを提供するためには、各団体における人的、資金的、組織的な基盤の整備が必要不可欠となり、オンラインでの支援スキルの獲得や人材育成の観点からは本取り組みの効果は高いものであるが、それのみではそれ以外の、根本的な課題解決に至りづらい点は否めない。特に外国人集住地域においては自治体の積極的な関与や、NPO等支援スキルを有する団体と行政との資金面を含めた連携の必要性が高い。また、外国人散在地域においてはオンラインも活用した「広域圏」の取り組みを推進することで、学校の中だけでなく、学校の外側で教育機会を失っている子ども

たちへのサポートに取り組むことが重要であることを、本事業の実践を通して改めて実感している。今後、この点の課題解決に関しては改めて本実践の成果や取り組みについて、広げていけるような発信を行っていきたい。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

基本的には対面での活動を控え、オンラインを通した伴走支援や研修などを実施している。また、当法人内部ガイドラインや外部ガイドラインを参照し、消毒、検温、換気等の基本的な感染対策を徹底し、体調不良時のリモートワークの推進を行っている。

② 広報に関する報告

- 1. シンボルマークの使用状況
 - ☑自団体のウェブサイトで表示している □広報制作物に表示している
 - □報告書に表示している ☑イベント実施時に表示している □その他
 - → 「その他」を選択した場合は記載してください(自由記述):

2. 広報

- 1.メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)
- 2.広報制作物等

事業紹介ウェブサイト https://minc-net.org/index.html 本事業の趣旨や活動を紹介し、ネットワークへの参加を呼び掛けるウェブサイトを制作。2020 年 7 月公開。

- 3.報告書等
- 4.イベント開催等(シンポジウム、フォーラム等)

④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	
☑完了 □整備中	
2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。	
□全て公開した □一部未公開 ☑未公開	
→「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日: 公開準備中。当法人本部ウェブサイトの改修を行い、完了次第公開予定。	
3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	
☑はい □いいえ	
→「いいえ」を選択した場合の理由:	
⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告	
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	
☑ はい □いいえ	
→「いいえ」を選択した場合の理由:	
☑はい □いえ	
	こ窓口を設置 ☑ JANPIA の窓口を利用
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	
☑はい □いいえ	
→「いいえ」を選択した場合の理由: 	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか	

— , , ,	
☑はい	□いいえ
L va ν '	$\square \circ \circ \circ \wedge$

→「いいえ」を選択した場合の理由:

上記の通り準備中。

5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。

□はい ☑いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由:

責任者設置済み。委員会は必要に応じて開催。

6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)

☑内部監査を実施 □外部監査を実施 □実施する予定がない

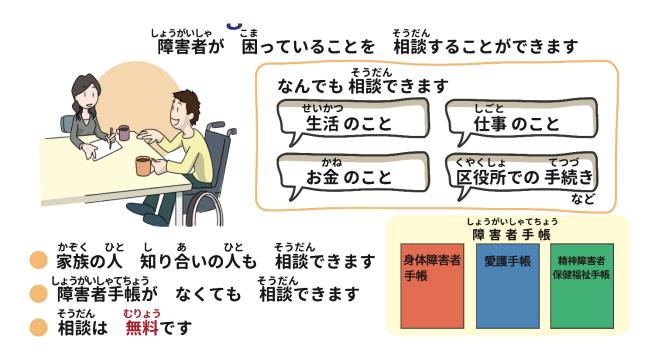
→「実施する予定がない」を選択した場合の理由:

添付資料

活動の写真(画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度)

写真① 海外ルーツの子ども×発達障害をテーマとしたオンラインセミナーの様子





写真③ オンラインによる支援実践

